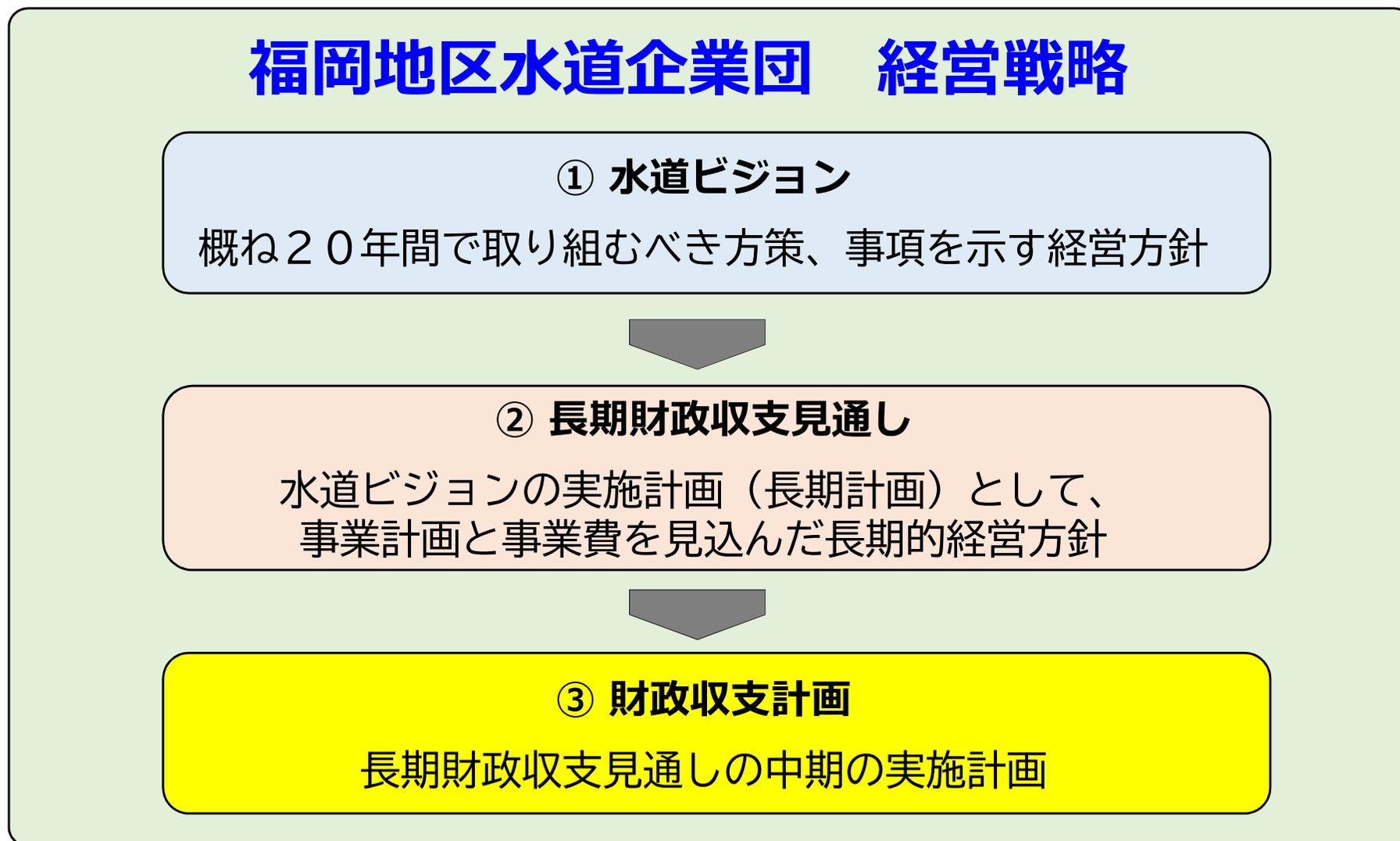


令和8年第1回議会 報告資料

- 1 「長期財政収支見通し2027（仮称）」の策定
及び「水道ビジョン2018」の一部改訂について
- 2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について
- 3 筑後川流域の水源地状況について

（1）当企業団の経営戦略



✓ 経営戦略に基づき、毎年度の予算や運営方針を策定し、事業を推進している。

(2) これまでの報告

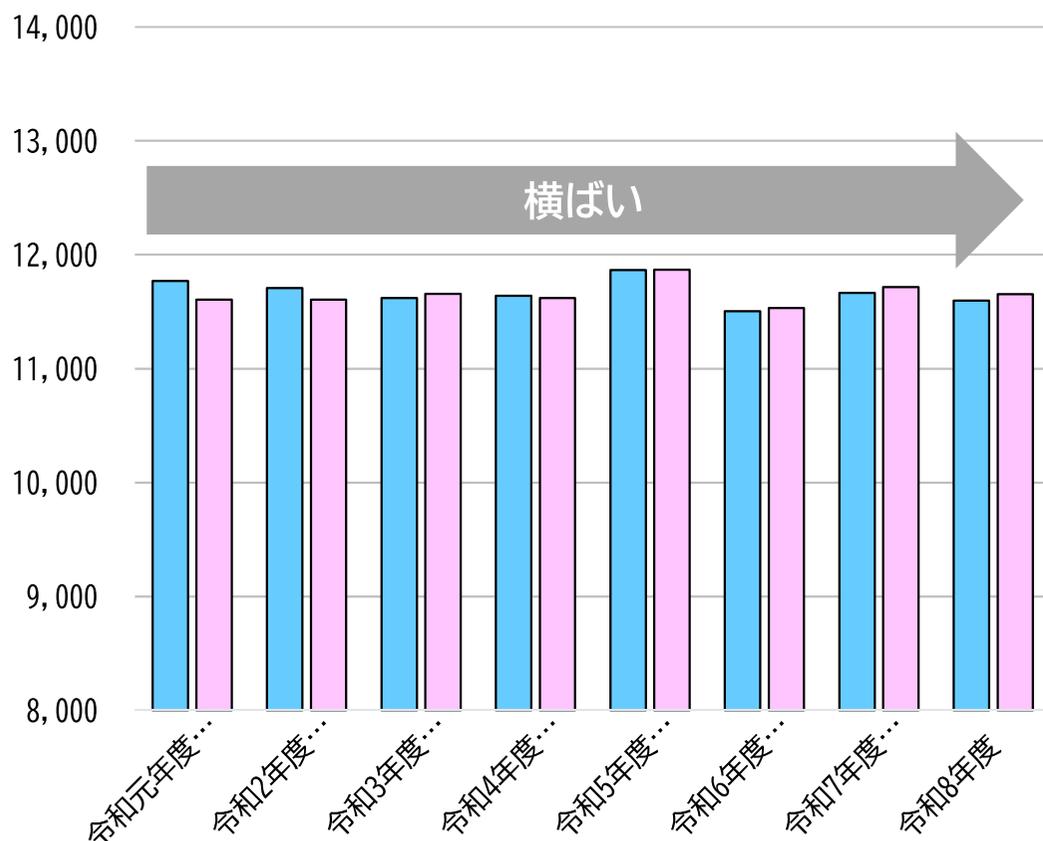
令和7年第1回定例会での報告

R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035	R18 2036	R19 2037
水道ビジョン2018																		
長期財政収支見通し2018				長期財政収支見通し2023														
第13次財政収支計画				第14次財政収支計画			第15次財政収支計画											

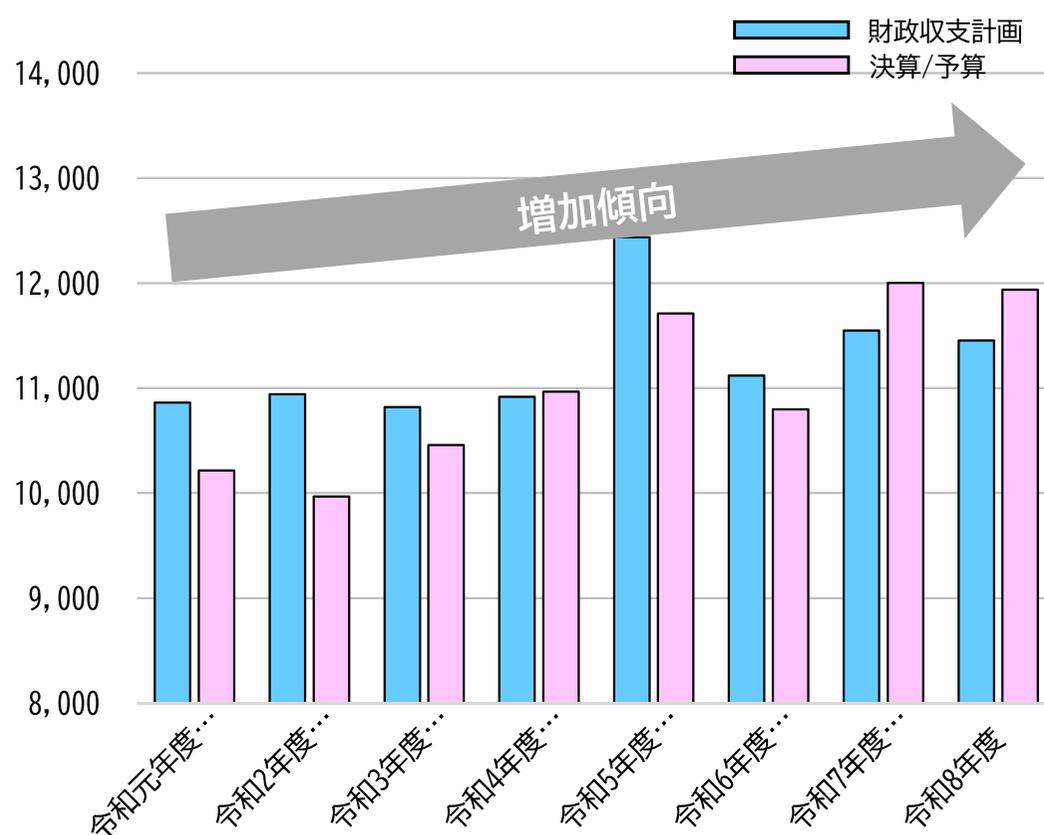
- ✓ 第14次財政収支計画の計画期間は令和8年度で満了となるため、
 現在、**次期計画（第15次財政収支計画）の策定に着手**

令和7年第2回定例会での報告

収益（収益的収支）



費用（収益的収支）



- ✓ 水源開発は完了し、今後供給水量は増えないため、**収益は横ばい**
- ✓ 一方で、**物価高騰**等に伴い**費用は増加傾向**

令和7年第2回定例会での報告

水道施設の**耐震化**及び**老朽化対策**への社会的要請の高まり



能登半島地震による送水管損傷（輪島市）



被害の状況

水道管の老朽化による破損（京都市）

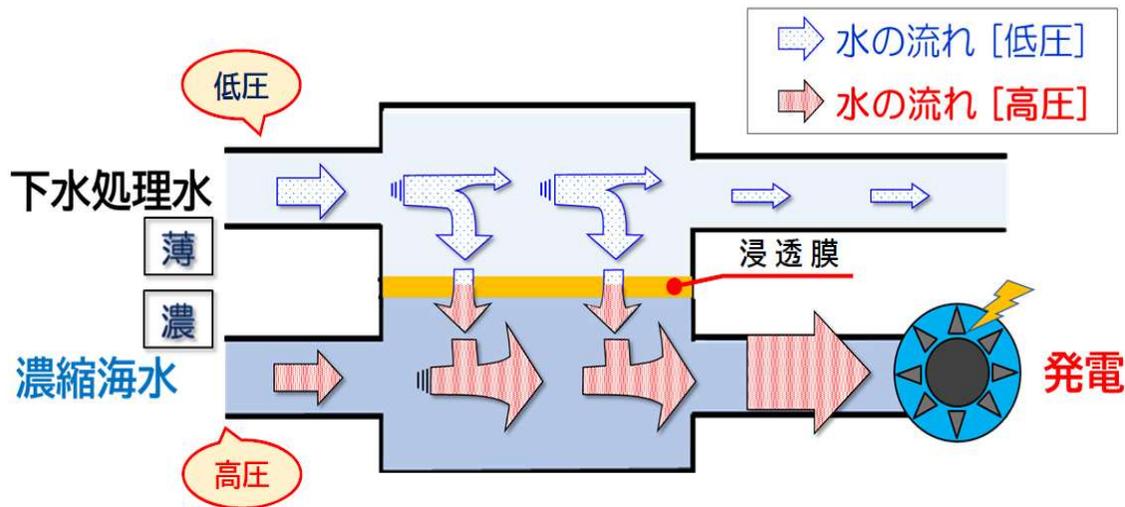
[出典：国土交通省]

✓ **老朽化施設の改築更新**や**地震対策**等の事業を**適切に推進**していく必要があり、**中長期的には厳しい経営環境が見込まれる。**

新たな取組み

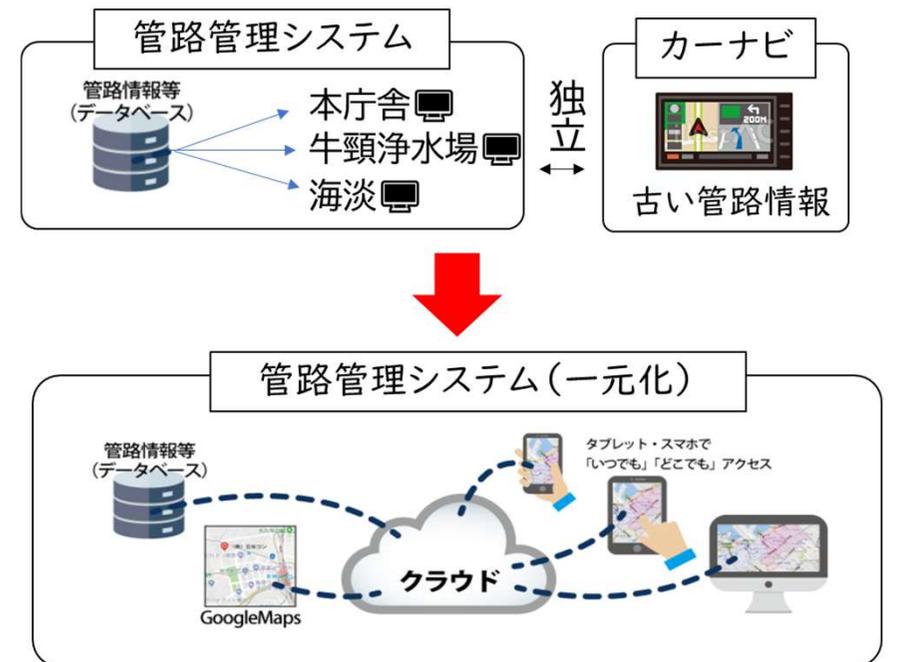
地球温暖化対策やDX技術の活用などの**新たな取組み**については、「長期財政収支見通し2023」・「水道ビジョン2018」に位置付けられていない

地球温暖化対策



【R7年度】浸透圧発電の稼働（海水淡水化センター）

DX技術の活用

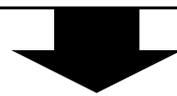


【R6年度】管路管理クラウドシステムの導入

(3) 今後の取組み

- 水道施設の**耐震化及び老朽化対策**への社会的要請が高まっている。
- 収益は横ばい**ながら、物価高騰等に伴い、**費用は増加傾向**。
- 地球温暖化対策やDX技術の活用等の、長期財政収支見通しや水道ビジョンに含まれていない**新たな取組み**を実施している。

企業団を取り巻く環境が大きく変化



第15次財政収支計画の策定にあわせ、

**「長期財政収支見通し2027（仮称）」の策定
「水道ビジョン2018」の一部改訂**

に取組む

（４）スケジュール

	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
有識者会議			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">6月頃</div> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; background-color: #c8e6c9; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 設置 </div> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; background-color: #e8f5e9; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 3回程度開催 </div> </div>		
議会等報告	令和7年 第1回定例会 ● 第15次財政収支 計画策定着手の 報告	令和7年 第2回定例会 ● 今回報告 第14次財政収支 計画の中間 振返り	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">8月頃</div> 令和8年 第2回定例会 ● 現計画の検証 新計画の方向性を 報告	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">11月頃</div> 令和8年 用水供給事業 促進対策委員会 ● 原案の 報告	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">2月頃</div> 令和9年 第1回定例会 ● 最終案の 報告
			有識者から頂いた意見等を 計画（案）に反映		
			<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffc107; padding: 10px; width: 20px; float: right;">策定</div>		

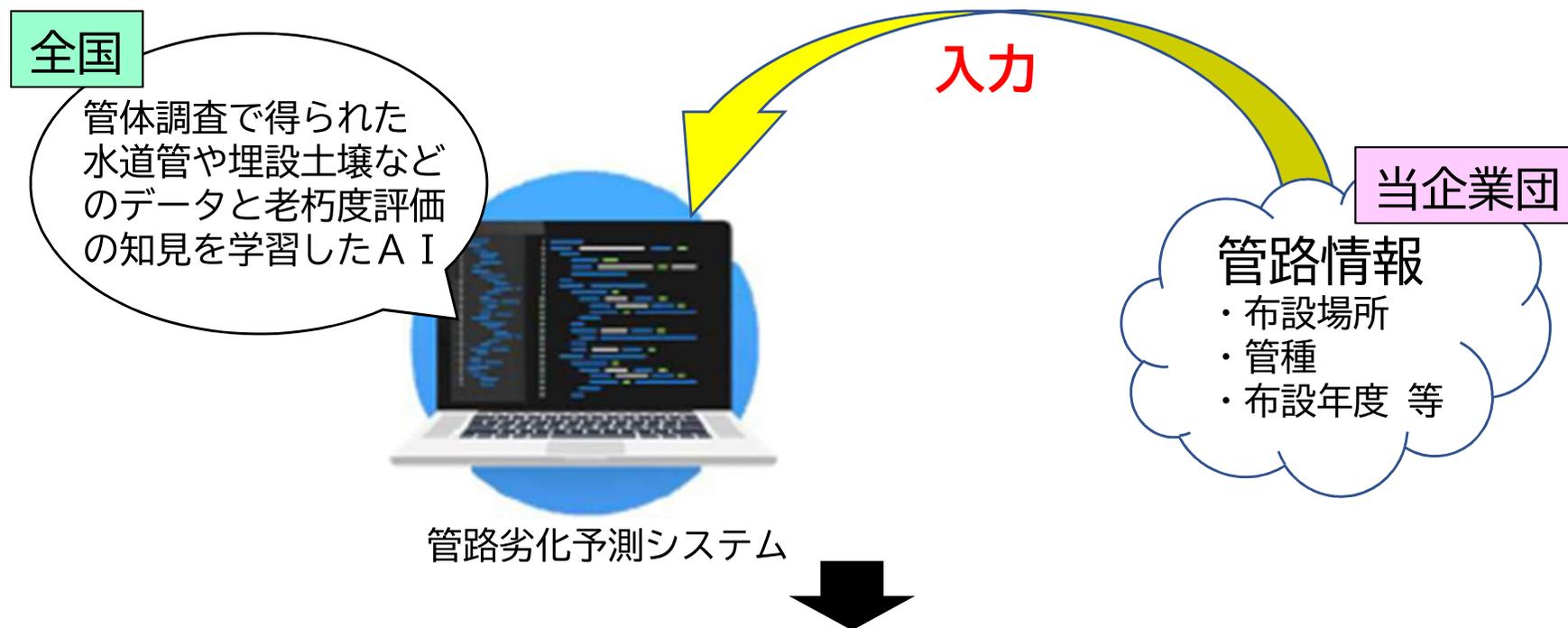
- ✓ 設置する**有識者会議**での学識経験者等のご意見に加え、
議会等のご意見を伺いながら、**令和8年度中に策定**する。

2 AIによる管路劣化予測の結果と 今後の対応について

2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

(1) AIによる管路劣化予測の概要

全国的な管体調査のデータと、老朽度評価の知見を学習させたAIに、当企業団の管路情報を入力し、管路の劣化状況を評価するもの。



現在及び将来における管路の劣化状況を評価

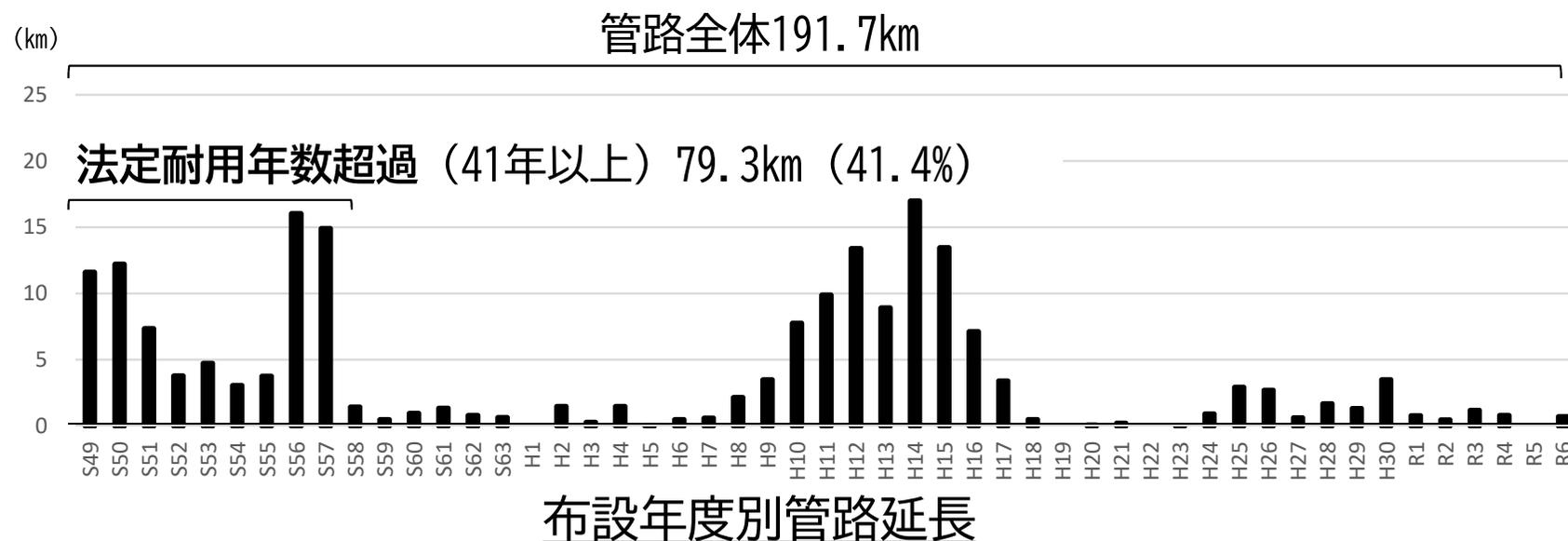
2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

(2) 対象施設

当企業団管理のダクタイル鋳鉄管174.4km（全体の91.0%）

鋼管：電気防食により劣化が抑制される等の理由から対象から除外

管種	延長	構成
ダクタイル鋳鉄管	174.4km	91.0%
鋼管	17.3km	9.0%
計	191.7km	100.0%



2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

〈参考〉全国的に鑄鉄管による漏水が発生

老朽化に起因する漏水等で、全国的に深刻な問題となっている**鑄鉄管は当企業団には存在しない。**

【全国での鑄鉄管漏水の事例】

- ・令和7年4月 京都市
- ・令和7年6月 鎌倉市 等



京都市管路破損状況（国土交通省資料）

※鑄鉄管とダクティル鑄鉄管の違い

管種	特徴	組成
鑄鉄管	ダクティル鑄鉄管に比べ引張り強度は小さく脆い <small>もろ</small>	鉄、炭素、ケイ素
ダクティル鑄鉄管	鑄鉄管に比べ約3.4倍の引張強度と10%以上の延性を持つ	鉄、炭素、ケイ素 マグネシウム

2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

(3) 評価結果について

①令和7年度時点

劣化が著しく即時対応が必要な管路はない。

即時対応が必要な状態：

腐食により管厚が薄くなり、外力(内部の水圧や外部の土圧等)に耐えられず、管が破損してもおかしくない状態(安全率1.0未満)

「水道維持管理指針2016(日本水道協会)」

2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

(3) 評価結果について

②10年後（令和17年度時点）

送水管の一部（約1.1km、全管路の約0.6%）に安全性が損なわれるおそれがある管路が現れる。



10年後[令和17年度]の評価結果



拡大図

[劣化の進行が予測される管路の属性]

須恵系送水管の一部

S56布設（令和17年度時点で54年経過）

口径250mm

腐食性が高い土壌（石炭含み）に埋設

2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

(3) 評価結果について

須恵系送水管の一部を令和7年12月に掘削し確認したところ、**管厚の大きい規格と判明した。**

管厚を修正したうえで再判定を行った結果、**安全性が損なわれるおそれがあるのが約20年経過後となった。**



調査状況（令和7年12月12日）



拡大図（ポリエチレンスリーブを外した状態）
※著しい劣化は確認されない。

2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

(4) 今後の対応について

① 日常的な管路の点検・調査

引き続き毎月1回管路施設の巡視点検、2年周期で探知器を使用した漏水調査を行う。



巡視点検の状況



漏水調査（音調棒による弁栓音聴調査）の状況

2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

(4) 今後の対応について

②遠隔漏水監視システムの試験導入

システム導入による効果

- ・ AIによる自動解析により、**漏水の早期発見が可能に**
- ・ アラートの自動送信により、**迅速な対応が可能に**
- ・ 漏水センサーでの毎日監視による**監視体制の強化**

日常的な管路の点検・調査

+



令和8年度の設置箇所

軌道下を横断する箇所など、漏水が起きた際に市民生活に与える影響が大きい管路に設置予定。

国土交通省上下水道DX技術カタログ(R7.10)より

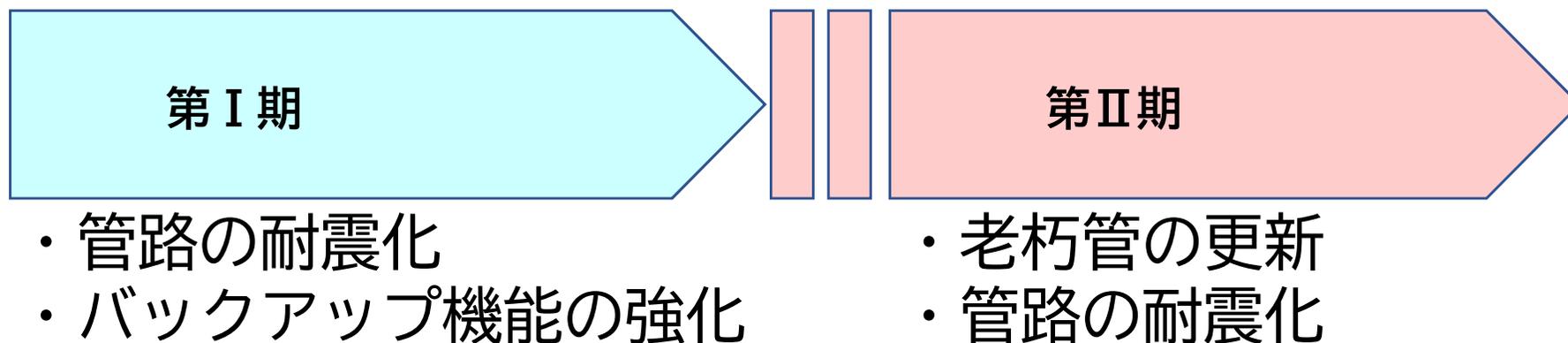
2 AIによる管路劣化予測の結果と今後の対応について

(4) 今後の対応について

③老朽管の更新

今回得られた管路の劣化予測結果等を踏まえて、「管路整備事業（第Ⅱ期）」の中で計画的に老朽管の更新に取り組んでいく。

管路整備事業



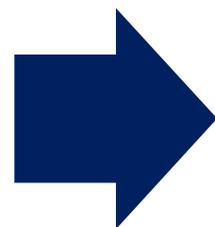
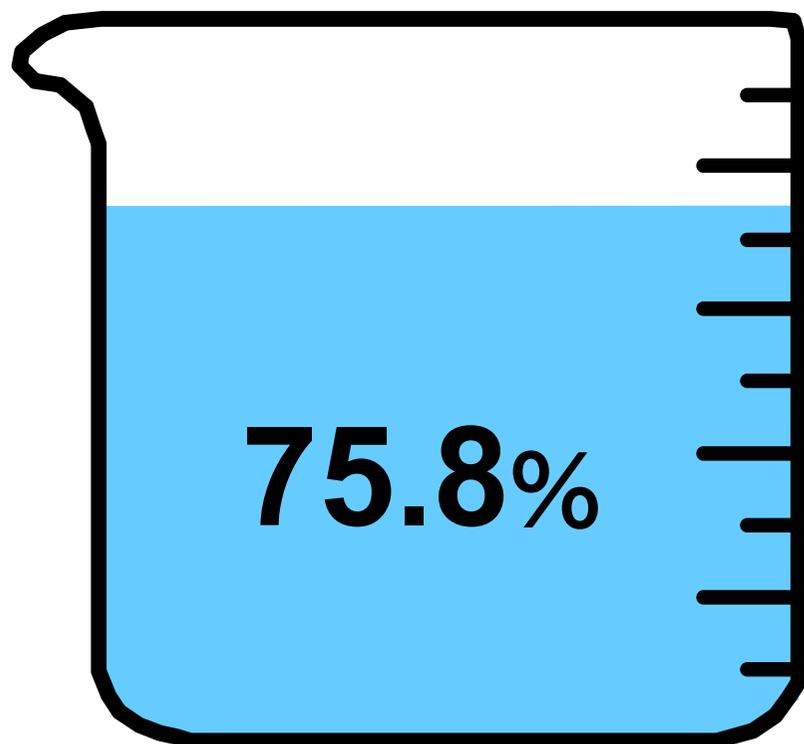
3 筑後川流域の水源状況について

3 筑後川流域の水源状況について

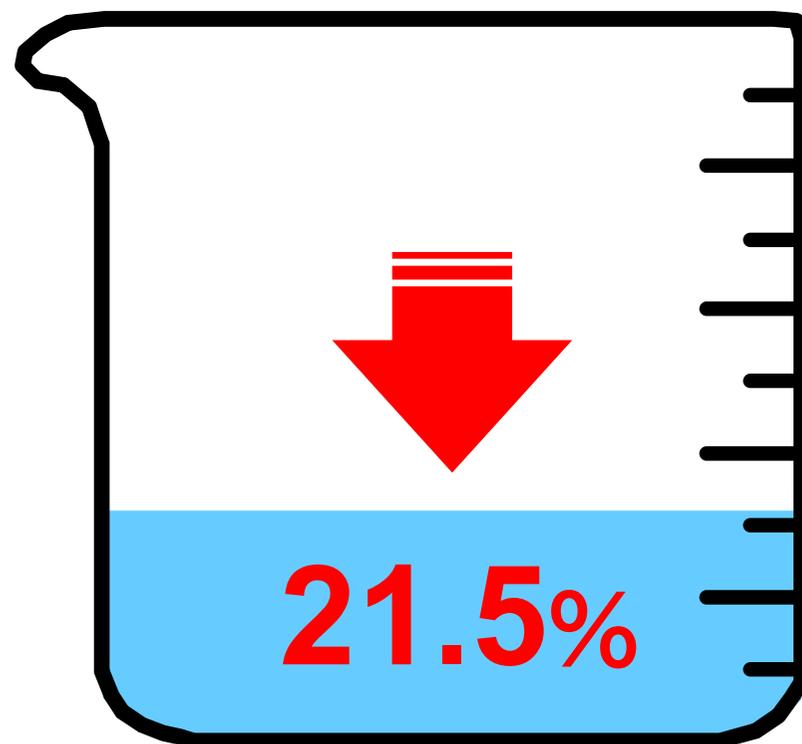
(1) 現在の状況

■筑後川水系ダム貯水率の比較

(R7.1.27 時点)



(R8.1.27 時点)

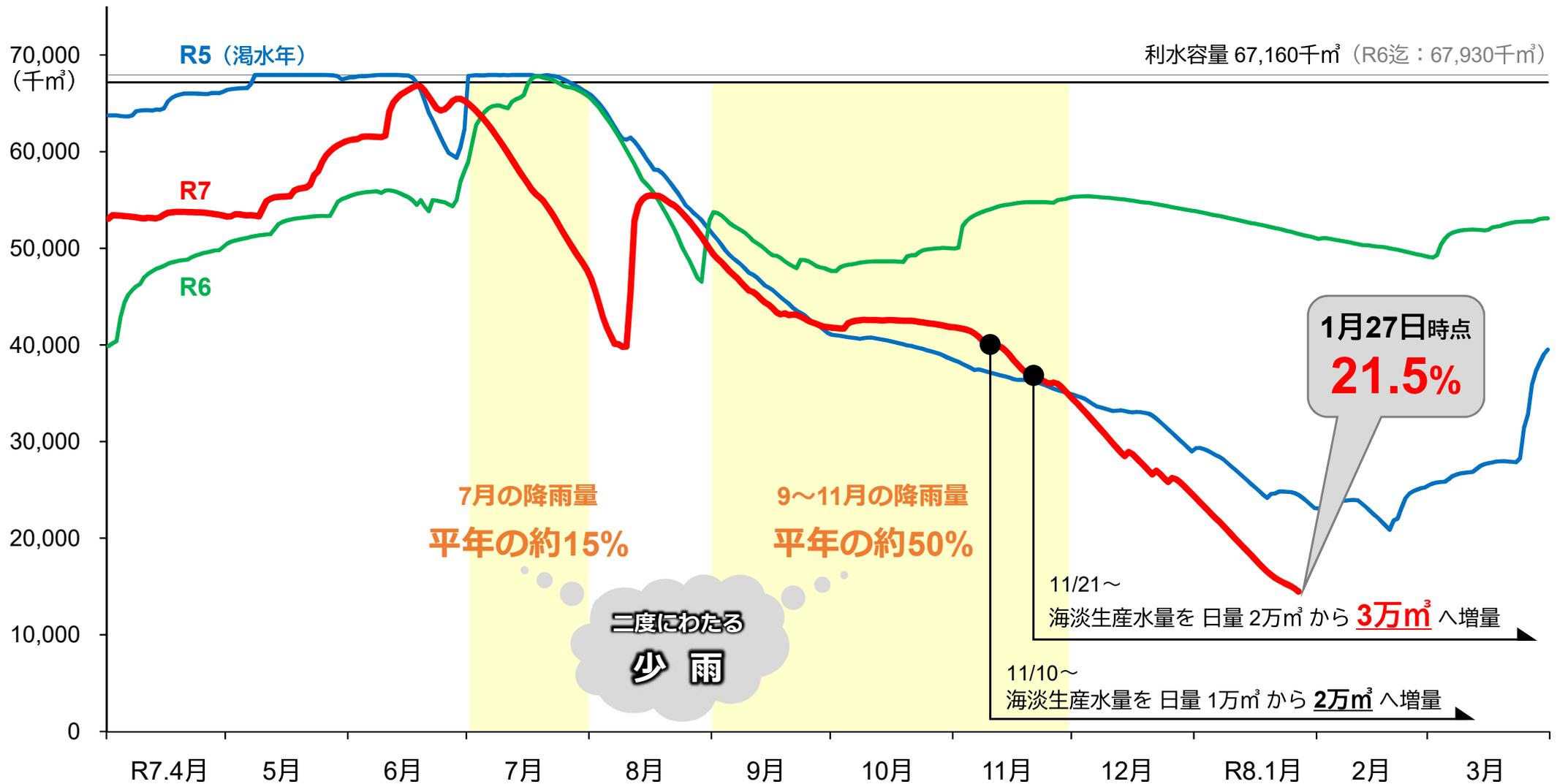


昨年度の同時期よりも貯水率が低下

3 筑後川流域の水源状況について

■筑後川水系ダム※貯水量の推移

※江川・寺内（小石原川）ダム、筑後大堰、合所ダム、大山ダム



少雨傾向に伴い、11月上旬以降 **減少の一途をたどっている**

3 筑後川流域の水源状況について

(2) これまでの対応

①海淡センターにおけるフル稼働 (筑後川取水の減量によるダム温存)

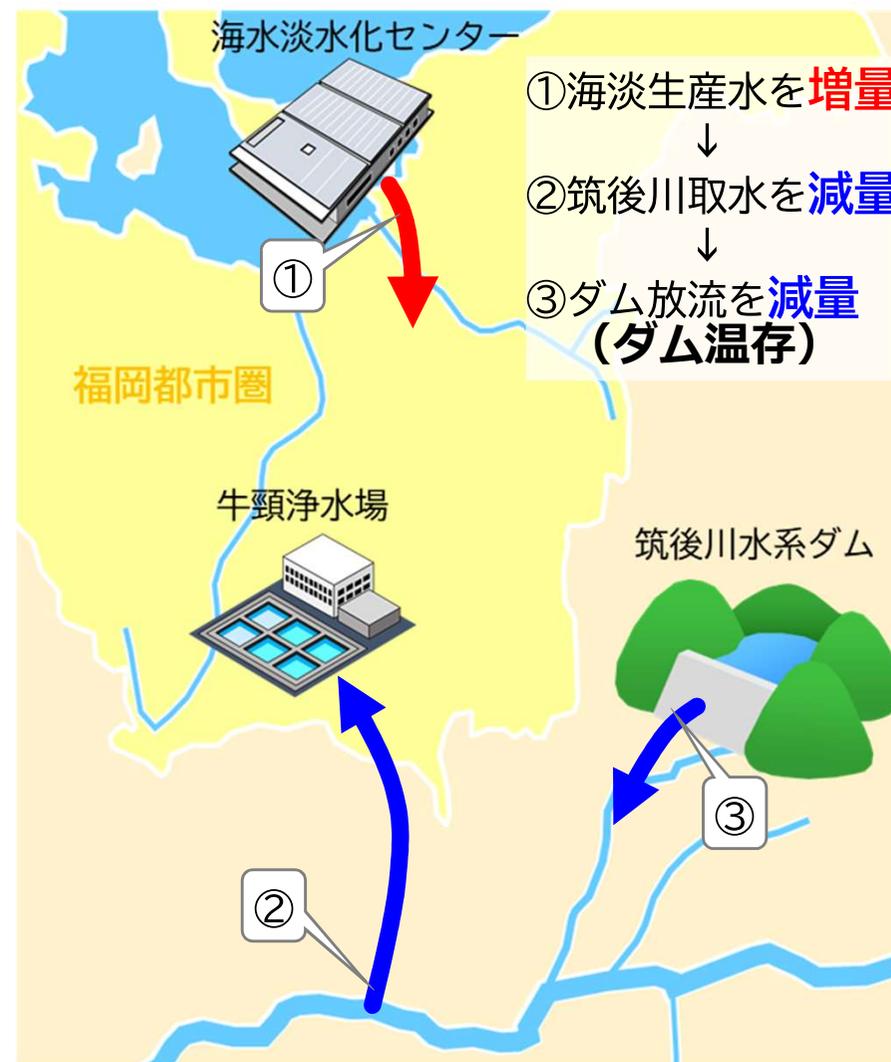
⇒11月21日以降、

3万m³/日※を生産中

※更新工事中の最大生産水量

②節水の啓発

- ・ホームページによる広報
- ・構成団体に対する住民への節水啓発活動の要請



海淡増量とダム温存の関係

3 筑後川流域の水源状況について

・ 節水PR街頭キャンペーンの実施

日 時：1月26日（月）8：30～

場 所：西鉄福岡（天神）駅 ソラリアステージ前

実施者：福岡地区水道企業団、福岡市、福岡県



街頭キャンペーンの様子（1/26 撮影）



配布物

3 筑後川流域の水源状況について

(2) これまでの対応

- ・ 企業団におけるホームページでの広報

福岡地区水道企業団
Fukuoka District Waterworks Agency

文字サイズ 小 中 大

喝水対策本部設置中

福岡都市圏及び福岡都市圏の水道水の1/3を供給する筑後川流域では、少雨傾向が続いています。節水にご協力ください！

身近な節水対策は [こちら](#) から

ホーム 行こうよ水源 企業団について 施設紹介

企業団情報トピックス

- 2026年1月15日 **new** 福岡地区水道企業団喝水対策本部を設置しました
- 2026年1月15日 **new** 配水池等の水質検査結果データを更新しました
- 2026年1月13日 **new** 「ふくすいき〜福水企通信〜」(令和8年1月号)の

身近な節水方法の紹介

企業団キャラクター ビュータくん

- 洗たく**
 - ・まとめ洗いで
 - ・ためすぎを中心に
 - ・ふろの残り水を使う1日の節水 約 80ℓ
- 食器洗い**
 - ・じゃ口はこまめに開け閉めを
 - ・ため洗いで (油汚れのひどい食器は紙などでふき取って)1日の節水 約 100ℓ
- お風呂**
 - ・お湯を入れすぎない
 - ・わかしすぎない
 - ・シャワーはこまめに使用する
 - ・入浴後の残り水は 洗濯、ふき掃除、散水に1日の節水 約 210ℓ
- 洗面**
 - ・じゃ口はこまめに開け閉めを
 - ・歯みがき中は、じゃ口を閉める
 - ・コップを使って口をゆすぐ1日の節水 約 100ℓ
- 水洗トイレ**
 - ・トイレの水は使用後の1回に
 - ・大小レバーの使い分けを1日の節水 約 210ℓ
- 洗車**
 - ・お風呂の残り水で
 - ・バケツにくんだ水を使う (ホースで水をかけっ 放しにしない)1日の節水 約 210ℓ

水は大切に 使いましょう。

福岡地区水道企業団

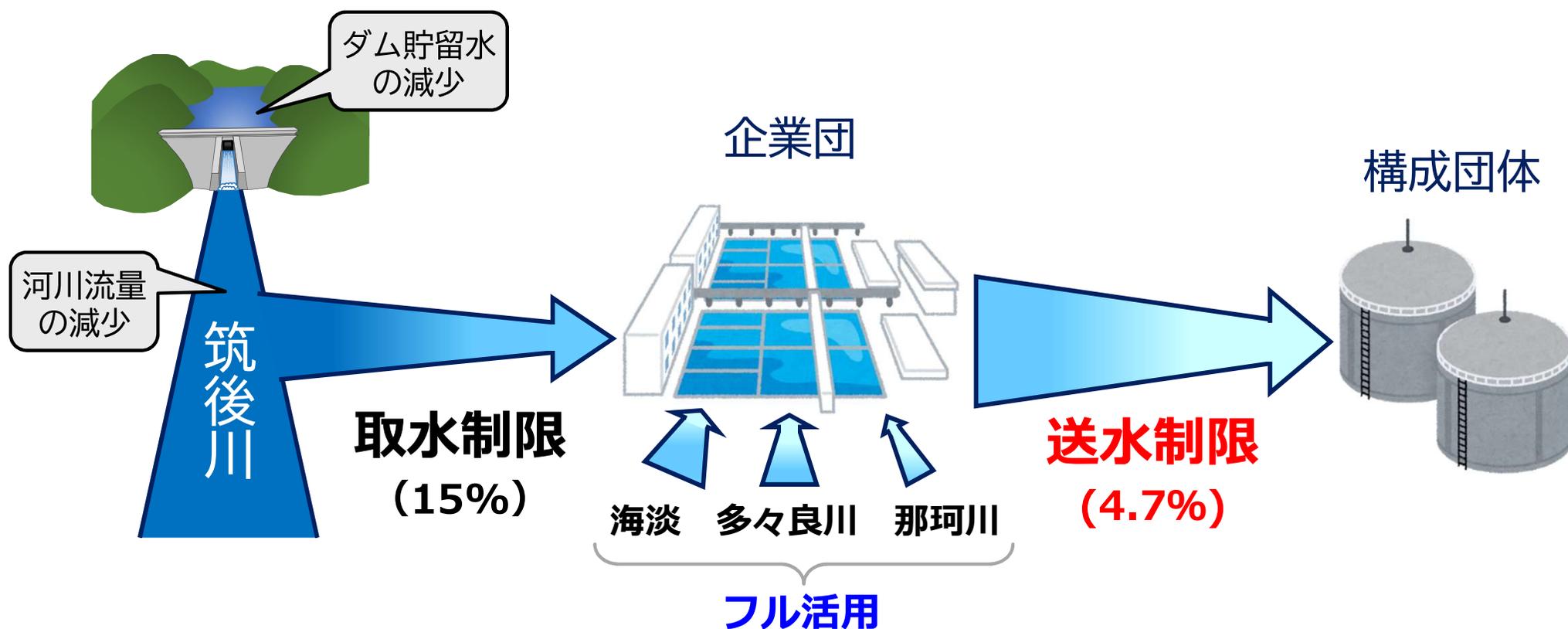
企業団HP

3 筑後川流域の水源状況について

(2) これまでの対応

③取水制限に伴う送水制限の開始

第2次渇水調整 ⇒ 1/16より **15%の取水制限**



構成団体へ、**平均4.7%*の送水制限**

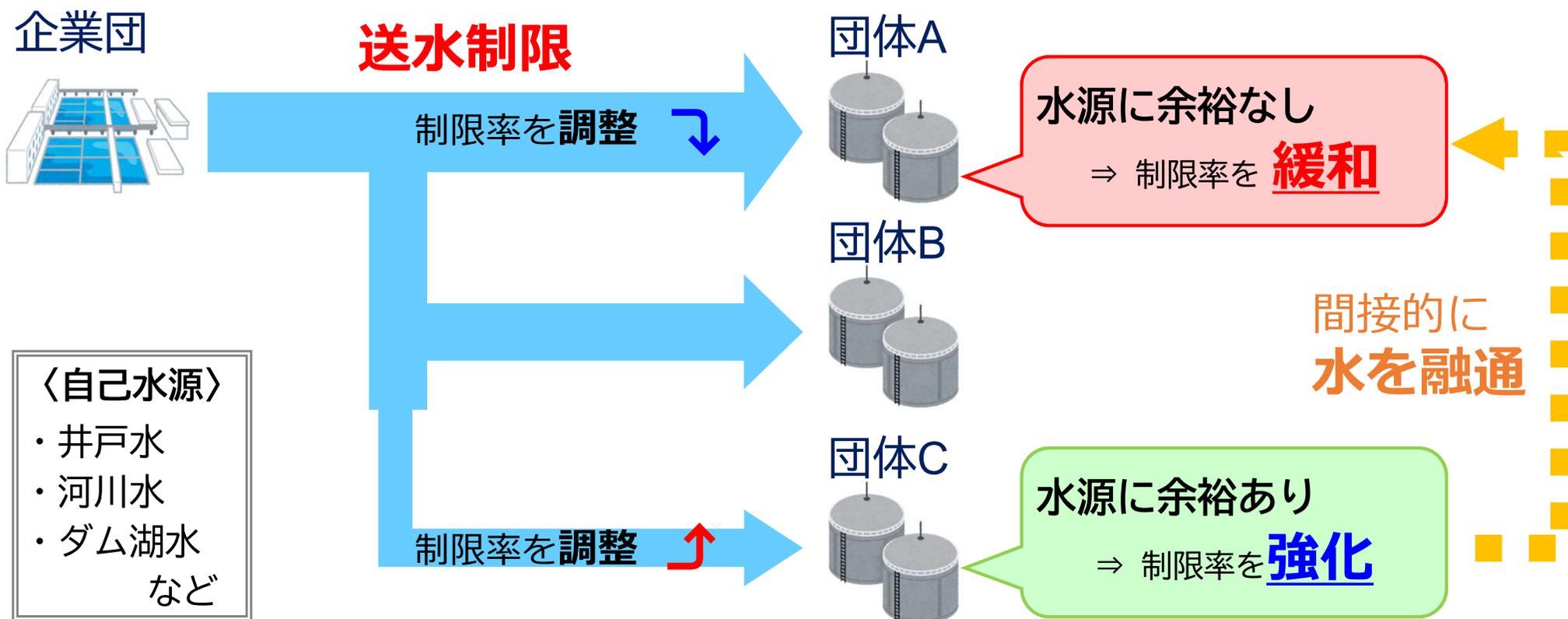
※他水源のフル活用により制限率を抑制

3 筑後川流域の水源状況について

(2) これまでの対応

③取水制限に伴う送水制限の開始

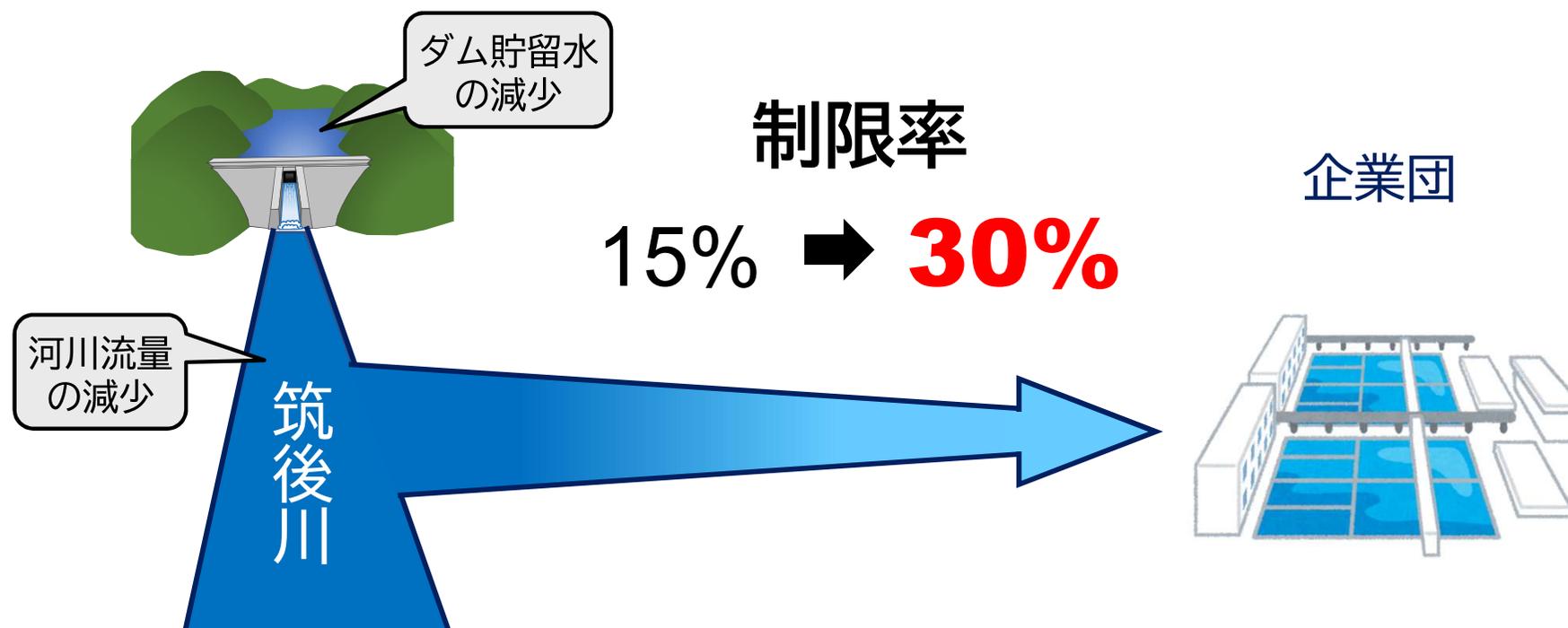
筑後川の取水制限率：**15%**



自己水源の状況に応じて、送水制限率を調整することで、
全団体の給水への影響を回避

3 筑後川流域の水源状況について

(3) 現在の渇水対応



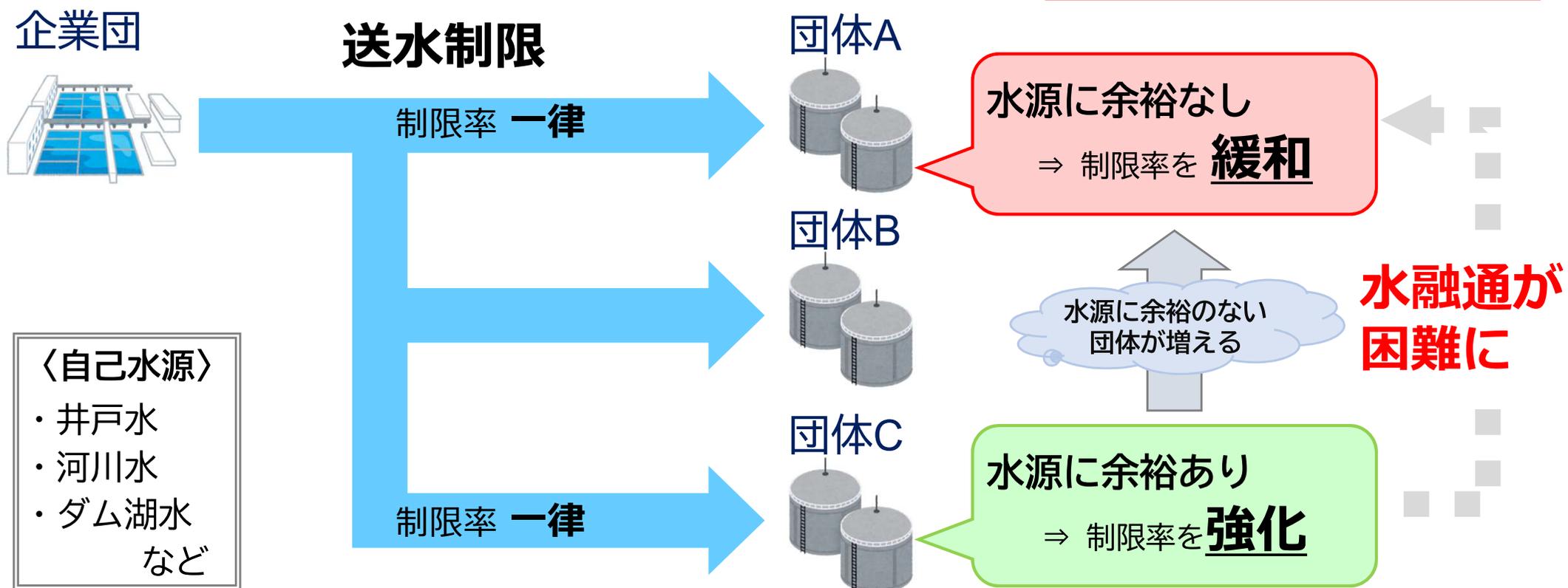
筑後川水系ダムのさらなる温存を図るため、

1月29日より、国等が **取水制限を強化**

3 筑後川流域の水源状況について

(3) 現在の渇水対応

① 送水制限の強化



十分な協力が困難になるため、**水融通を解除**

⇒ **全団体へ 一律17.6%*の送水制限** を実施

※他水源のフル活用により制限率を抑制

3 筑後川流域の水源状況について

(3) 現在の渇水対応

国等による対応

これまでの渇水調整により

- ・ ダムの統合運用による効率的な水源の活用
- ・ 取水制限
- ・ 山口調整池の活用
- ・ 節水啓発活動の要請 など

⇒ ダム貯留水の延命化に取り組まれている

3 筑後川流域の水源状況について

(4) 今後の渇水対応

さらなる取水制限の強化に備え、
構成団体には、

「一層の自己水源の活用」

+

「節水の取組強化」 を要請

⇒ 今後も都市圏で **連携・協力** し、

渇水対応に取り組んでいく